



令和7年5月吉日

各 位

四條畷学園短期大学
教学委員長 工藤真由美

学生による「授業評価アンケート」の実施について

平素より本学の教育・学生指導にご尽力賜り、心より厚く御礼申し上げます。
本学では授業改善・教育力向上に向け、授業評価アンケートの実施に取り組んでおり、今年度の実施をお願いする次第です。

授業評価アンケートは、授業到達目標の達成度（学修成果）を基準にして、学生・教員双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にすることを目的としております。また、中間アンケートを実施することで、授業の課題・改善点を浮き彫りにし後半の授業に反映させることで、学生の授業への参加意識を高め、授業到達目標の達成度を高めるねらいがあります。

なお、授業評価アンケート結果に基づく「授業評価アンケート報告書」のご作成と、本学ホームページでの公開も予定しております。あらかじめご了承ください。

何卒趣旨ご理解の上、ご協力賜りますよう、よろしく願いいたします。なお詳細・日程につきましては、次項『授業評価アンケート実施要領』をご覧ください。

授業評価アンケート実施要領

教学委員会

ねらい

- 学生の満足度による授業評価ではなく、授業の到達目標の達成度（学修成果）を基準に学生・授業担当者双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にする
- 中間アンケートの導入により、学生の授業への参加意識を高める

授業評価アンケート 実施対象

- 専任教員： 担当授業科目のうち 任意の2科目（又は同一科目2クラスでも可）
 非常勤教員： 担当授業科目のうち 任意の1科目＝1クラス

※注 複数の授業担当者が15回授業の途中で交代するオムニバス授業は、中間アンケートの結果が反映されないので授業評価アンケートの対象から除外

実施スケジュール

4/7～	授業1回目～	授業の到達目標の周知 ・シラバス記載の到達目標（授業終了段階で、学生にできるようになってほしい事柄）を学生に明確に示す
5/24～ 6/6	授業8回目頃	授業評価「中間アンケート」の実施 ★1 1. アンケート用紙を授業担当者が学生に配布（事務室で必要枚数を受け取って下さい） 2. 学生が回答した用紙を授業担当者が回収 *教学委員会に提出は不要です 3. 翌回、学生の意見・要望等をフィードバック、授業改善に活用する
7/7～ 7/18	授業14～15回目	授業評価アンケートの実施 ★2 ・学生がユニパにログイン、回答する ・アンケート集計結果の閲覧期間 <u>7/23～8/31</u> *システム上、学生は結果を閲覧できません
8/25 ×切	成績評価後	授業評価アンケート報告書の提出 ★3 ・授業担当者がユニパにログイン、回答する

★1～3 時期が近づきましたら、ユニパ配信でお知らせする予定です

《中間アンケート》

- 問1 この授業の良い点を具体的に述べて下さい。
- 問2 この授業について改善してほしい点を具体的に述べて下さい。
- 問3 あなたは、授業中の分からないことや不明な点を質問したり調べたりしましたか。
1. そう思う
 2. ややそう思う
 3. あまり思わない
 4. そう思わない

《最終アンケート》

- 問1 中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか。
1. そう思う
 2. ややそう思う
 3. あまり思わない
 4. そう思わない
- 問2 この授業は、積極的な参加を促すための工夫（質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなど）がされていましたか。
1. そう思う
 2. ややそう思う
 3. あまり思わない
 4. そう思わない
- 問3 この授業の予習・復習および課題に当てた時間は、1週間でどのくらいですか。
1. 2時間以上
 2. 1～2時間
 3. 30分～1時間
 4. 30分未満
- 問4 この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。
1. ほとんど達成できた（90～100%）
 2. かなり達成できた（80～89%）
 3. 少し達成できた（70～79%）
 4. あまり達成できなかった（60～69%）
 5. ほとんど達成できなかった（59%以下）

《授業評価アンケート報告書》

（各欄 300 字以内）

- 問1 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。
- 問2 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい（今後の課題も含む）。



*** 授業評価アンケート（中間アンケート）***

このアンケートは、履修生の学修成果を上げるため、授業をより良くする目的で実施するものです。記述内容は成績評価に関係しません。

問1 この授業の良い点を具体的に述べて下さい。

問2 この授業について改善してほしい点を具体的に述べて下さい。

問3 あなたは、授業中の分からないことや不明な点を質問したり調べたりしましたか。（あてはまるもの一つに○をつけて下さい）

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない



令和7年6月吉日

各 位

四條畷学園短期大学
副学長・教学委員長 工藤真由美

授業評価アンケートの実施および報告書ご提出のお願い

平素より本学の教育・学生指導にご尽力賜り、心より厚く御礼申し上げます。

今期授業も終了に近づいて参りました。「中間アンケート」を実施した科目(クラス)につきまして、授業評価アンケートの実施を下記の通りご案内申し上げます。

校務ご多忙の折大変恐縮ではございますが、授業改善・教育力向上に向けご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

記

実施期間 : 授業回数 14 回目もしくは 15 回目 (7/7~7/18 補講の場合含む)
※年間行事予定・ユニパの出欠管理で授業回数の確認ができます

実施対象科目 : 「中間アンケート」を実施した科目 (クラス)

実施方法 : p2 マニュアル : 学生用【授業評価アンケートの回答方法】参照
※授業評価一覧には、学生の履修授業がすべて表示されます。
教員の指示する授業科目のみに回答させて下さい。

結果の閲覧 : p3 マニュアル : 教員用【授業評価アンケートの閲覧・授業評価アンケート報告書の回答方法】参照
※実施科目以外の科目名が表示される場合がありますが、学生が間違えて回答したものです。学生は結果を閲覧できません。

※授業評価アンケート

結 果 閲 覧 期 間 : 7/23(水)~8/31(日)

報 告 書 作 成 期 限 : 8/25(月)

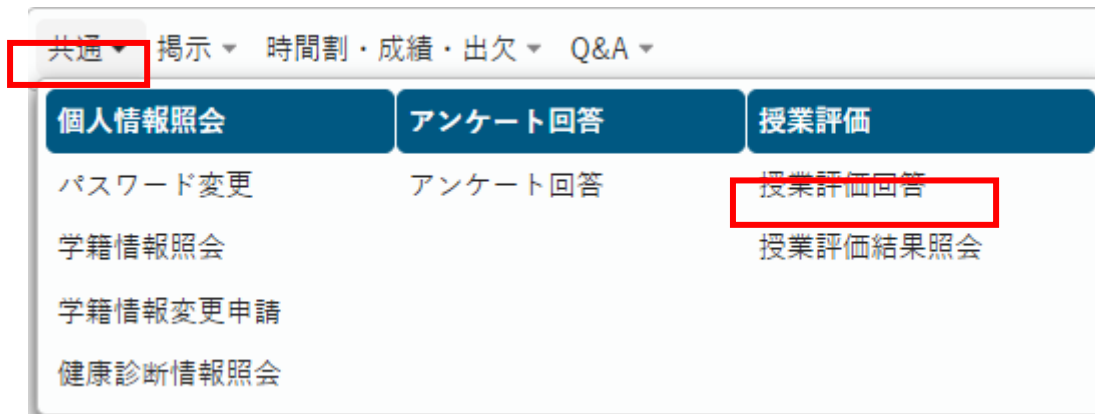
※ユニパのアンケートに回答する形での報告書作成となります。授業評価アンケートの結果について、中間アンケート・学生の成績(学修成果の状況)と関連づけ、ご考察下さい。

以上

学生用

【授業評価アンケートの回答方法】

- ①パソコンまたはスマートフォンから UNIPA へログインします。
- ②「メインメニュー」⇒「共通」⇒「授業評価回答」を選択します。



- ③回答する「授業科目名」をクリックします。
- ④アンケート内容が表示されますので、全ての問いに回答してください。
- ⑤すべての回答が終了したら、下部にある「回答」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the course evaluation survey form. The title is 「短期大学」授業評価アンケート. The form contains four questions with radio button options. The '回答' (Answer) button at the bottom is highlighted with a red box.

授業評価プレビュー

差出人：FD委員会

【短期大学】授業評価アンケート

授業評価アンケートです。回答をお願いいたします。

1.
問1 中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか。

そう思う ややそう思う あまり思わない そう思わない

2.
問2 この授業は、積極的な参加を促すための工夫（質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなど）がされていましたか。

そう思う ややそう思う あまり思わない そう思わない

3.
問3 この授業の予習・復習および課題に当てた時間は、1週間でどのくらいですか。

2時間以上 1~2時間 30分~1時間 30分未満

4.
問4 この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと感じますか。

ほとんど達成できた (90~100%) かなり達成できた (80~89%) 少し達成できた (70~79%) あまり達成できなかった (60~69%) ほとんど達成できなかった (59%以下)

ありがとうございました。

回答

UNIVERSAL PASSPORT

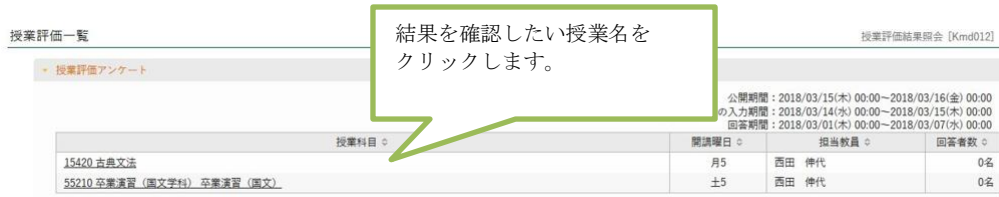
教員向け授業評価アンケート閲覧方法

授業評価アンケート結果を確認する。

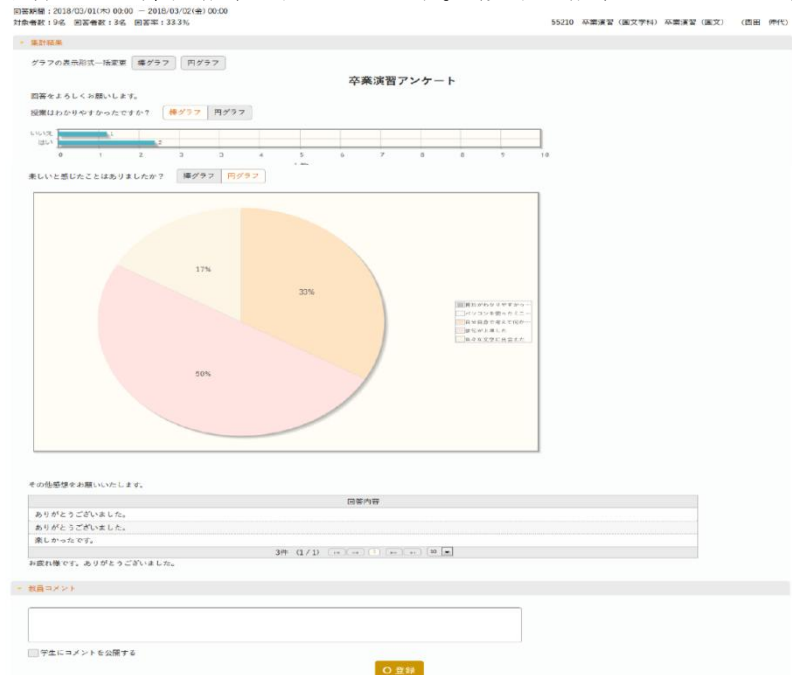
- ①メインメニュー → 授業関連 → 授業評価結果照会を開きます。



- ②【授業評価一覧】画面が表示されます。



- ③授業ごとの集計結果が表示されます。(以下の結果はサンプルです)



UNIVERSAL PASSPORT

授業評価アンケート報告書 作成方法

①メインメニュー → 共通 → アンケート → アンケート回答を開きます。



②授業評価アンケートを実施された科目についてご入力ください。

アンケート実施科目

1 科目・・・項目 1～8 まで

2 科目・・・項目 1～16 まで ご回答ください。 よろしくお願いたします。

アンケートプレビュー

回答期限：2025/02/19(木) 23:59 差出人：FD委員会

【短期大学】授業評価アンケート報告書

授業評価アンケートを実施された科目についてご入力ください。
よろしくお願いたします。

- 【年度】
- 【学期】
- 【授業コード】
- 【科目名】
- 【お名前】

以下の質問にお答え下さい。（各300字以内でお願いします。）

- この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。

回答後は、下部【回答】ボタンを押して終了してください。

2025年度前期 「授業評価アンケート」 報告書

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	合田 誠	社会福祉 (1, 2, 3, 4組)	ワーポイントのスライドの文字が小さくて見づらいとの指摘に対しては、文字を大きく修正して対応した。また、スライドの進みが早い時があるとの指摘については、それまでも意識して声かけ確認はしていたが、さらに声かけの念押しをした。 改善点はパワーポイントに関する指摘のみであった。	到達目標の達成状況は、回答した学生の半数が「ほとんど達成できた」と「かなり達成できた」である。しかしながら本試験の結果と到達目標の達成状況には連動していなかった。実際に社会福祉に関する専門的な学習内容がどれほど身に付いたかは、今後の日常生活や社会人として終了後にその判断が個人々々なされていくものとする。 また、今年度から「classroom」を活用して、従来の紙ベースの資料配布をclassroomでの配信に変更した。その導入効果を今後注視していきたい。
		卒業ゼミ	パワーポイントのスライドについて、文字の色使いの工夫を願う指摘があったので、本来は重要事項を強調するために意図的に色の変化をもたせたが、シンプルな色使いに変更した。	2年生の「卒業ゼミ」のため、「到達目標」の達成状況はほとんど(75.0%)が「達成」できたと回答している。「児童虐待」というそれぞれが関心のあるテーマを自ら選択している関係で、このような結果になったと考えられる。 今後も、受講生が意欲的に学べる環境や授業内容の工夫に努めたい。
保	鍛冶谷 静	子どもの理解と援助 (1・2・3組)	教室の照明が明るすぎてプロジェクターの映像が見えにくいとの声があった。教室の半分の照明を落とすことにしたが、学習環境としては暗すぎるようにも思え、悩ましいところである。	到達目標の達成について、学生の自己評価と実際の成績に大きな差はなかった。事例の検討を図式化するなどして丁寧に行ったが、よく理解できたとの反応が複数あった。教科書の解説が優れているので、この授業では一文一文じっくり目を通し、学生が個々に考えを深める時間を大切にしていきたいと思う。
		子どもの理解と援助 (4・5・6組)	改善の要望は何も上がらなかったが、このクラスでも教室の照明を落としてみた。やはり暗い方が見やすいようであった。	到達目標の達成について、学生の自己評価と実際の成績に大きな差はなかった。事例やエピソードの検討について、こちらのクラスでも重要な事柄への理解を助けたとの声があった。教科書の解説が優れているので、この授業では一文一文じっくり目を通し、学生が個々に考えを深める時間を大切にしていきたいと思う。
保	香月 欣浩	幼児と図工Ⅰ (1・2組)	「クラスによって指導の差があるのはやめてほしい」とありました。 そのように意識はしていませんでしたが、そう感じた学生がいたことは間違いなので、気を付けるようにしました。 大変勉強になりました。	ほぼ達成できていた。 また、別で行なった振り返りシートの自由記述でも学生は授業のねらいを理解し、多くの気づきがあったことが分かった。後期は前期の学びを基礎としてさらに学びを深めていきたい。
		幼児と図工Ⅰ (3・4組)	座席のことについて書いていた学生がいたので、配慮した。 今後も座席の変化によって多様な人間関係や表現を理解することも学んでくれると嬉しい。	人間関係はそれぞれなので、状況や時期、授業内容をバランスよく考えて、実施していきたい。 また別でおこなった授業振り返りアンケートでは学生の前期での学びは高いと感じたので、後期も期待したい。ただ、アンケート実施の日に欠席者が多かったため、正しい判断はできないかもしれません。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	阪野 学	こども家庭支援論 (4・5・6組)	毎回の授業においてアクティブラーニングとして学生にチャトルシート（以下、シート）の提出及び答え合わせをして間違いを訂正したシートの再提出を課している。毎回のシートには要望があれば書き込める様にしている。尚、要望については、積極的な受講態度として評価し必ず次の授業でリアクションをするようにしている。対応ができない場合は何故対応できないのか説明をしている。そのため中間アンケートには取り立てて要望は無かった。 しかし、授業のシートには、シートを授業の開始前に配布して欲しい、パワーポイントのシートの問題の回答にあたる部分にアンダーラインをして欲しい、パワーポイントを見やすくして欲しい、テキストのアンダーラインを引く所が分かり難い事があるので配慮して欲しい、アクティブラーニングを導入して欲しい（シートの取り組み自体がアクティブラーニング）、授業の後半が急ぎ足になるのでペース配分を考えて欲しい等の要望があった。何れも次の授業で要望のあった旨を説明し改善を行った。	チャトルシートを導入した目的は、授業内容の習熟度向上と学生たちがシートを活用して質問や要望が挙げる事が出来積極的に授業に参加できる様にするためである。そして更に毎回のシートに授業内容について考察文を書かせ添削の上返却し訂正させることによる文章力の向上の狙いも兼ねている。そして、その結果予習も含めた学外学修時間の確保に繋がっている。ただし、学生に過度な負担が掛からない様に要望や本アンケートの結果に留意しながら対応を検討している。アンケートでは、2時間以上かけている学生は19%、1～2時間かけている学生が38%、30分～1時間が33%、30分未満が10%とあり、全体の約80%の学生が2時間以内であり、本科目に課せられている学外学修時間4時間の半分であった。アンケートの結果からシラバスの到達目標の達成状況として学生の75%が、ほとんどできた・かなりできたであった。そして、少しできたが25%であり、達成できなかったと回答した学生はいなかった。したがって、概ね達成できたと考え事ができる。
		社会的養護Ⅱ (4・5・6組)	毎回の授業においてアクティブラーニングとして学生にチャトルシート（以下、シート）の提出及び答え合わせをして間違いを訂正したシートの再提出を課している。毎回のシートには要望があれば書き込める様にしている。尚、要望については、積極的な受講態度として評価し必ず次の授業でリアクションをするようにしている。対応ができない場合は何故対応できないのか説明をしている。そのため中間アンケートには取り立てて要望は無かった。 しかし、授業のシートには、シートを授業の開始前に配布して欲しい、パワーポイントのシートの問題の回答にあたる部分にアンダーラインをして欲しい、パワーポイントを見やすくして欲しい、テキストのアンダーラインを引く所が分かり難い事があるので配慮して欲しい、アクティブラーニングを導入して欲しい（シートの取り組み自体がアクティブラーニング）、授業の後半が急ぎ足になるのでペース配分を考えて欲しい等の要望があった。何れも次の授業で要望のあった旨を説明し改善を行った。	チャトルシートを導入した目的は、授業内容の習熟度向上と学生たちがシートを活用して質問や要望が挙げる事が出来積極的に授業に参加できる様にするためである。そして更に毎回のシートに授業内容について考察文を書かせ添削の上返却し訂正させることによる文章力の向上の狙いも兼ねている。そして、その結果予習も含めた学外学修時間の確保に繋がっている。ただし、学生に過度な負担が掛からない様に要望や本アンケートの結果に留意しながら対応を検討している。アンケートでは、2時間以上かけている学生は14%、1～2時間かけている学生が36%、30分～1時間が45%、30分未満が5%とあり、全体の約85%の学生が2時間以内であり、本科目に課せられている学外学修時間4時間の半分であった。アンケートの結果からシラバスの到達目標の達成状況として学生の68%が、ほとんどできた・かなりできたであった。そして、少しできたが27%であり、達成できなかったと回答した学生は5%であった。したがって概ね達成することができたと考える事ができる。
保	金川 朋子	スポーツⅠ (1・2組)	テキストに準じて授業を行った テキストは、コメント等を直接書き込める形式を使用し、自分の考えをまとめ、グループで意見交流、発表の流れで、主体的な学びができるように工夫した。授業の後半では、お手玉の練習タイムも行い、理論を発展させ、より実践力を育むようにした。	「ほとんど達成できなかった」という回答が2名いたが、それ以外はおおむねシラバス到達目標を達成できたという自己評価を得ることができた。 どこが難しいことは何かを、授業内で確認しながら、今後進めていきたい。
		スポーツⅠ (3・4組)	テキストに準じて授業を行った テキストは、コメント等を直接書き込める形式を使用し、自分の考えをまとめ、グループで意見交流、発表の流れで、主体的な学びができるように工夫した。 授業の後半では、お手玉の練習タイムも行い、実践力を育むようにした。	おおむねシラバス到達目標を達成できたという自己評価を得ることができた。 理論と実技の統合を後期は特に意識して取り組みたいと考える。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	千田 耕太郎	幼児と音楽Ⅰ (1・2組)	中間アンケートの回答の中に、授業の改善を要求する内容は無かった。 ただ、ピアノ初心者が全体の半数以上を占める中、ピアノレッスンの先生方には、一人ひとりを励まし、寄り添いサポートしていただくよう、授業前の会議で何度も伝えた。	学生のシラバス到達目標の自己評価(アンケート結果)と実際の成績はおおよそ比例している。 ただ、保育、教育現場で活かせるピアノ演奏力を身につけさせるため、ピアノの課題内容をより、学生の実情に合ったものにするための研究と、ピアノの予習復習をより効果的にさせるための研究が必要だと感じている。
		幼児と音楽Ⅰ (3・4組)	中間アンケートの回答の中に、授業の改善を要求する内容はほとんど無かった。 ただ、ピアノ初心者が全体の半数以上を占める中、ピアノレッスンの先生方には、一人ひとりを励まし、寄り添いサポートしていただくよう、授業前の会議で何度も伝えた。	学生のシラバス到達目標の自己評価(アンケート結果)と実際の成績はほぼ比例していた。 ただ、保育、教育現場で活かせるピアノ演奏力を身につけさせるため、ピアノの課題内容をより、学生の実情に合ったものにするための研究と、ピアノの予習復習をより効果的にさせるための研究が必要だと感じている。
保	松下 明日香	保育実習指導Ⅰ (1・2組)	中間アンケートでは、特に改善してほしい点は挙げられなかったが、日誌が書けるかどうか不安があるためアドバイスがほしいというコメントがあった。 引き続き、保育場面を想定した具体的な対応の提示や日誌の添削などをおこなった。	7割以上の学生が目標に近づいたことを実感している。実習に臨む姿勢や基本的な手続きについて、理解が深まったと考える。
		保育実習指導Ⅰ (3・4組)	中間アンケートでは、特に改善してほしい点は挙げられなかった。 初めての实習でイメージがつかず不安も高いことが予想されるため、具体的かつ視覚的に繰り返し伝え、実践する時間を多くとることを心掛けた。	7割以上の学生が目標に近づいたことを実感している。実習に臨む姿勢や基本的な手続きについて、理解が深まったと考える。
保	森 麻希子	保育内容演習 (総合表現) (1・2・3組)(4・5・6組)	学生からは「歌、楽器、演技など色々な表現方法学べる」「人前で発表することに慣れる」「みんなで取り組むことができるため楽しい」など前向きな意見が多く寄せられた。 改善してほしい点はほとんど見られず数人からではあるが、一部から歌の担当箇所を明確にしてほしい、指導の仕方を統一してほしい、という意見が見られた。歌の担当については、全員で練習し定着してから、ソロ、全員で歌うところを整理というように計画して進めていたため、どのように分担するかを改めて伝えた。指導については、複数教科(音・図・体)で連携しているため情報を共有しながら進めていた。各専門からの視点により教員からのアドバイスにも違いが生まれることがあり、どのように自分たちで取り入れ消化していくか、ということも学びであることを改めて伝えた。	1・2・3組 対象者数：31名、回答率：77.4%のうち、学生の自己評価はほとんど達成58%、かなり達成33%、少し達成8%、4・5・6組 対象者数：29名、回答率：82.8%のうち、学生の自己評価はほとんど達成48%、かなり達成46%、少し達成8%であった。 達成状況については、1・2・3組がS：48%、A：52%、4・5・6組がS：7%、A：72%、B：17%、その他：3%であった。多くの学生が到達目標を達成している。例年、学生達が協力しあい主体的に動いていたかどうかポイントになっていると感じている。引き続き協力しあえる雰囲気作りを心掛けていきたい。
		幼児と音楽Ⅲ (1・2・3組)(4・5・6組)	学生からは「先生が優しく親身に接してくれる」「ピアノを丁寧に教えてくれる」「集団自習室でもゆっくり指導してもらえる」「自分のペースで課題が進められる」「色々な楽器に触れる」「知らない童謡を知ることが出来る」といった意見が寄せられ、授業でピアノ個人レッスンが受けられ、手厚い指導体制であることが好評であった。 要望については、特になしがほとんどであった。「もっと楽しみたい」「人前でピアノを弾くことが緊張する」などが挙げられた。 中間アンケートの結果について、授業担当の先生方全員と共有し、学びと音楽の楽しさを両立できるように引き続き努めた。	1・2・3組 対象者31名 回答率：54.8%。学生の自己評価は、ほとんど達成35%、かなり達成47%、少し達成12%、ほとんど達成できなかった6%であった。 4・5・6組 対象者数：19名 回答率：73.7%。ほとんど達成14%、かなり達成64%、少し達成21%であった。 達成状況については、1・2・3組がS,A=42%、B=55%、C=3%、4・5・6組がS,A=48%、B=47%、その他5%だった。 実技科目であるため、普段の取り組み度合いが結果に表れた形になったと思う。実習、就職にもつながるように指導をしているが、学生のモチベーションを維持するにはどうしたら良いかを引き続き工夫していきたい。
保	阪江 豪	幼児と人間関係	理解しやすいように各回のテーマに沿った事例とその説明を実施している。	概ね到達できているが、個々に応じた対応も必要だと感じた。
		保育内容演習 (言葉・人間関係)	実習等の実践で活用できる教材作りを実施し、その意味等も解説した。	概ね到達できているが、個や集団での活動に対する工夫が必要だと感じた。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	竹歳賢一	情報基礎 (3・4組)	教室が縦長で、後ろの座席は説明用のスクリーンが見えにくいという指摘があったので、スクリーンに提示する情報は拡大および口頭で丁寧に説明するなどして工夫をした。	到達目標：「情報機器を活用した効果的な授業（遊び）や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。」について、概ね達成できている。 今後の課題として、アプリケーションソフト利用スキルなどの情報活用能力について、履修開始時に個人差があり授業内の演習課題の取り組みに影響する場面があったので授業方法等の工夫をおこないたい。
保	山口 裕基	保育内容演習 健康・環境 (4・5・6組)	中間アンケート前は、講義ごとに完結するように考えており資料の配布を行わなかったが、資料が欲しいというアンケート結果を踏まえ講義で使用しているスライドの写真撮影を許可した。講義の90分の中で、3～4回ほど講義の内容に即した現場での実情を話すように心がけた。	講義内容については、おおむねシラバス通りに学生に伝える事は出来たと考えているが、学生個々の受け取り方や理解度を考えると講義の進め方や伝え方に改善できるポイントはあると感じている。
ラ	出嶋 陽介	日本国憲法と人権	ややこしいところは、より噛み砕いた説明を加えるようにしました。	成績が良好な学生とそうでない学生の差が目立つように思いました。初年度なので加減が分からなかったのですが、今学期終了時点で、ある程度見えてきたと思います。ほぼシラバス通りに進行できたと思っております。ただ、今度の課題としては、事件の説明には相関関係図を入れるなどの可視化に努めるようにします。
保	大森由美子	子ども文化Ⅰ (音楽)	人前での発表が多い授業形態であるが、「一人でしたくない」「友達としたい」などの意見があったので、挙手制や、教員指定ではなく学生主導のグループ決めの選択を実施して配慮対応した。 たくさんのお手遊びをしたいという意見が多くあったので、アンケート後も授業毎時間に積極的に取り入れた。 実際に実習や就職後も生かせるような指導案を考え発表の機会を作った。	この授業の到達目標である「幼児の音楽文化、音楽表現について総合的に研究する。童謡、童話等の題材を研究し、保育現場で展開、実践する方策を学ぶ。」ということについて、毎回の授業内容を吟味し、提示してきた。また、子どもの歌声についてよい声とはどのようなものか子どもの歌に相応しい詩の解釈と表現や、童謡及び歌付き絵本の教材、手遊びなどの視覚的要素による相乗効果とその実践方法などを提示し毎回の授業に取り入れた。 ペープサートの制作については、学生が理解を深められるように、教員が実演し、各自のイメージを高めて制作に入れるように配慮した。制作期間中も各学生へのアドバイスを手厚くし制作に集中できる環境を整えた。アンケート結果からみても目標はほぼ達成したものと考えられる。来年度については、今回の中間アンケートを参考にし前半授業期間の授業内容・指導方法もさらに良くしたいと思う。
保	辻本有里恵	保育・教育課程論 (1・2組)	①マイクの使用について つつい講義に力が入ると、声の音量が大きくなり、その上マイクを通して講義をすると、学生にとって大きな声が余計学修の妨げになっていたことが分かった。 それ以後、マイクを使用せず、声に抑揚をつけることに意識して講義を行った。 ②資料について コスト面から、印刷機を使いカラーコピーをしていなかったが、学生の多くがカラーコピーの要望があった。 しかし、カラーコピーして配布するのではなく、classroomにも資料を添付することで、カラー資料を確認ができるようにした。	シラバス達成結果については、1人以外が達成できたと感じている。 ドキュメンテーションの課題や、レポート課題からも意欲的に取り組む姿があった。その方法として学生同士で意見や考えを述べさせる方法を取ることを意識することで、他者の考えにも触れることができ多面的な見方を感じることができたのではないかなと思う。 また、自身の経験の中で出会った子どもたちの姿から話をすることで、カリキュラム理論の理解がイメージしやすかったと思う。特に「保育・教育課程論」は、実際現場に出たからしか理解が難しい内容も含まれるが、今後も出来るだけ学生がイメージをもてるような話を盛り込みながらの授業展開を考えていきたい。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	大庭夕穂	2112012 英語 (英会話A) (3・4組)	<p>・授業の進度に関して、学生が板書する時間をとれているか、授業内容についてこられているかを十分に確認しながら進めるようにしました。</p> <p>・「授業中に当てないでほしい」という意見に対しては、当てることの意義を説明した上で、発言する前に調べる時間や学生同士で相談する機会を設けました。</p>	<p>本科目は、保育現場において、外国籍の子どもたちとコミュニケーションが取れるよう言語基盤を身に付けるとともに、異なる文化を理解し受け入れる寛容性や柔軟性を養成することを到達目標としています。テキストの内容に即した問題を解くだけでなく、実際に使う場面を意識して学習を進めました。また、異文化との接触や交流について自分の意見を述べる活動も行いました。シラバス到達目標を「ほとんど達成できた」・「かなり達成できた」と回答した学生の割合が80%であることから、掲げた目標は概ね達成できたと考えます。一方、ペアワークやグループワークを行う時間は限られていたため、学生同士で協力して活動する枠を設けることが今後の課題です。</p>
保	西田 正慶	日本語表現 (1・2組)	<p>授業スライドに表示された教科書の文字が見えづらいというコメントがあったため、プロジェクターの拡大機能を使用するなどして教室の両端や後方の座席の学生にも見えやすいように努めた。</p>	<p>はじめに、学生の回答結果として、全回答者16名中、到達目標を「ほとんど達成できた」・「かなり達成できた」が約7割を占め、「少し達成できた」が25%であった。</p> <p>たいして実際の成績では、〈秀〉・〈優〉が11名で約5割、〈良〉・〈可〉が8名、〈不可〉が4名となった。評価上では、学生自身で計算可能な素点を除いたレポート試験の得点が本人評価より下回ったために〈優〉以上の成績を残した学生の割合が本人評価より下回ったものとみられる。</p> <p>学生にとって初めて取り組んだレポートであるため、今後も継続的に論理的な文章の作法を身につけていく必要があるが、学生がおおむねこうした作業に苦手意識を持つことなく授業を受け終えられたことは良いことと捉えてよいのではないかと考えられる。</p> <p>一方、学生の自己評価とは反対にアンケート上では可視化されていない〈不可〉の学生の数も一定数いるため、「大学での学習の基礎となる知識および技能を身につける」という点において、こうした学生を授業内の取り組みをつうじて減らしてゆく必要があると考えている。</p>
保	福仲 昌代	子ども文化II (腹話術)	<p>ほとんどの学生が楽しく授業を受けていて、改善点について「特になし」という回答であったが、1名から「1分間スピーチが嫌だ」という意見があった。腹話術を演じるには、人前で話すことは必須であり、パペットアカデミーのレッスンでも取り入れられている「1分間スピーチ」をとりいれていたが、抵抗のある学生がいるため、スピーチではなく、「手遊び発表会」に変更した。また、一人が難しい学生は二人での発表でもよい、ということに改善したところ、全員が楽しく発表できるようになった。その後も、演技の発表では、全体前での発表ではなく、4名～5名の少人数の中の発表にしたり、個別に友達とおしで撮影し合った動画を提出、それを全員が見るということも取り入れ、「人前で話す」ことをいろいろな形態で体験できるよう、工夫した。</p>	<p>授業内容を問う問題については、全体的にたいへん良く回答できていたので、授業は全員毎回きちんと理解していたことが伺える。腹話術の演技(実技)については、基本的な方法では、全員取得し、オリジナル台本も作成して、オリジナルパペットを使った腹話術の演技ができるようになった。また、こども園での子どもの前での実践発表では、子どもの反応や声を拾って、アドリブで演技を行う状況も学生の姿から多く見受けたので、目標はほぼ達成できたかと考える。腹話術は、保育場面の様々な場面で活用できる技術でもあるので、今後も保育者をめざす学生が腹話術を習得し、自分なりに保育での活用方法を考えて、取り入れていけるような授業構成を考えていきたいと思う。</p>
保	福鹿 慶子	乳児保育I	<p>パワーポイントの字を大きく、特に大事な部分には赤色や色をつけてわかりやすく見やすくした。</p>	<p>現場経験の話を交えながら授業を進めることで、学生たちにとってわかりやすく、到達目標の達成に近づいたと思われるので、引き続き後期乳児保育IIの授業で復習しながら到達できるように進めていきたい</p>

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	中川 玲子	卒業ゼミ(発展) (中川玲子ゼミ)	中間アンケートでは、改善点の要望は全くなかったが、授業では調理がしたいとの声が聞かれたため、実施した。 PCで作成しWord資料やPowerPointで整理した提案メニューを、実際授業内で調理し、互いに試食評価することで、発表の際の質問にも的確に答えることができるだけの実践的学びができていた。	授業評価アンケートでは、回答者全員が80%以上の達成度であった。
		食生活健康	数名の学生から「進み方が早い時がある」との意見が寄せられたので、常に声をかけて、全員がノートを書き終えたのを確認しながら授業を進めた。また授業終了後もPowerPointをしばらく映し、学生の要望があれば、再度解説を行った。	「ほとんど達成できた(90%以上の達成度)」については、学生の成績では28%の学生が達成していたが、授業評価アンケートでそのように回答した学生は10%であった。「かなり達成できたも含める(80%以上の達成度)」については、学生の成績では44%の学生が達成していたが、そのように回答した学生は39%であった。いずれも実際の達成度より学生自身の自己評価はやや厳しくなっていた。「少し達成できたも含める(70%以上の達成度)」では、成績と自己評価がほぼ等しく、80%以上の学生が達成し、またそのように評価していた。達成度が60%未満の学生はゼロであり、全員がシラバスに示されている到達目標を達成した。
ラ	伊東めぐみ	医療事務1	中間アンケートの結果には、改善・工夫が必要な内容が記載されていなかったが、授業を行って感じたことは、請求業務の演習を行う際時間を決めて行う際に学生の行っている様子を見てると、時間内に完了できない学生が一定数いることがわかり、学生が演習技能を獲得するためには時間が不足しているということだった。授業時間は限られているので難しいが、できる限り演習時間を確保し、十分理解できるよう配慮する必要があることを感じた。	授業評価アンケートの結果では、「この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。」の設問について、「かなり達成できた(80~89%)」が最多で75%だった。 対して授業評価(素点)は、秀、優獲得者が合わせて37%という結果であり、授業到達目標を十分達成している学生は半数以下という結果であった。学生の自覚している目標への到達度と、実際の成績では乖離がみられた。医療事務1、2の内容は暗記だけでなく理論の理解も必要で、医療事務エリアの授業の中で特に難解度が高い授業科目であるが、秀、優に到達できる学生を更に増やせるよう努めていきたい。
		医療事務総論	中間アンケートの結果には、改善・工夫が必要な内容が記載されていなかったが、授業中間で行ったテスト結果からわかったこととしては、授業ごとに内容が変わるので、1回授業を休んだら、その回の内容が飛んでしまうということがあるように見受けられたため、次の授業の冒頭に前の授業の復習を少し入れるようにした。授業内容すべてを復習することはできないが、ポイントを押さえて復習することで、完全に内容が飛んでしまうことについては改善できた。	授業評価アンケートの結果では、「この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。」の設問について、「かなり達成できた(80~89%)」が最多で60%だった。 対して授業評価(素点)は、秀、優獲得者が合わせて45%という結果だった。学生の自覚している目標への到達度と、実際の成績を比較すると、多少学生の到達度の実感が上回っている結果であった。この授業の授業評価(素点)が秀、優獲得者が合わせて45%という数字は、ほぼ半数弱ということであるから、目標達成到達度としては高い到達度で、中間と最終の2回に分けてテストで評価する評価方法とし、中間のテストの結果を本人に伝えることで最終のテストに備えることができたことなどが理由として考えられる。各自の目標を定められるようにして、そこに向けて努力するという学習方法に向上効果がみられたので、次年度も引き続き行っていきたい。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	工藤真由美	日本語表現法ろ	毎回配布のプリントが大きく枚数が多いという意見に対しては、次回から持参不要なプリントを指示するなどして学生の利便性に寄与した。プリントの大きさについては、大きな字を読んだり書き込んだりできるユニバーサルデザインであることを説明し、理解を得た。	授業評価での自己評価がかなり上振れしているのが例年にない結果だ。客観的に自己分析することも必要と考える。平常の小テストを大切に取り組んでいる学生は結果を残しているが、小テストや授業そのものを疎かにしている学生は、到達目標未達成に終わっている。今後は平常の小テストの振り返りに時間を割き、到達目標達成に向け働きかけていきたい。
		日本語表現法い	毎回配布のプリントが大きく枚数が多いという意見に対しては、次回から持参不要なプリントを指示するなどして学生の利便性に寄与した。プリントの大きさについては、大きな字を読んだり書き込んだりできるユニバーサルデザインであることを説明し、理解を得た。	非常に熱心に授業に取り組むシラバスの到達目標を高いレベルで達成した。にもかかわらず、自己評価はかなり厳しめである。皆が普段の授業を大切にしており、そのため理解度が高い。今後も、学生が毎回の授業に積極的に取り組むように、授業改善に努めていきたい。
ラ	安谷 元伸	卒業ゼミ(発展) (安谷ゼミ)	中間アンケートでは、授業改善に関する意見等がなかったため、情報提示を常に行う等を継続して授業に取り組んだ。	問4の「この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか」では、40%がほとんど達成できた、60%がかなり達成できたと回答しており、ゼミとして一定の学修成果が得られたものと考えられる。次年度以降も、同様に学生の自主性を活かせる授業を展開していきたい。
		ウェブデザインII	中間アンケートでは、授業改善に関する意見等がなかったが、わからない所を質問しやすいとの意見が見られたことからhtml等の記載の確認や質問の時間を確保した授業展開を心掛けた。	問4の「この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか」をはじめ、問1、問2で「そう思う」の回答は100%であったが、授業評価の回答者が授業履修者の半数以下であった。第14回目、15回目に授業評価を実施したものの、演習作業に手が取られ授業中に回答する時間的余裕がなかったためと考えられる。次年度以降は、アンケートの入力時間等を確実に確保した上で実施したい。
ラ	中川明仁	自分探しの心理学	配布プリントについて、ノートの箇所を色付けしてほしいとの意見が出ていた。全て対応できたわけではないが、白黒になっていたノートの箇所をカラーにした。	中間アンケートでは「静かな授業環境で受けられる」「授業スピードがちょうどよい」等、ポジティブな意見が全体的に多かった。授業後半のアンケートでは、自由記述はみられなかったものの、「学生が積極的に参加できる機会がある」との項目に「そう思わない」と回答している率が高かった。座学のため講義が中心となるが、リアクションペーパーをもう少し取り入れるなど、積極的な学生の授業への参加の機会を今後は設けていきたい。
		発達心理学	「3時間目は眠たくなるので、ちゃんとあてて欲しい」「ノートの穴埋めの箇所を色付けしてほしい」との意見が見られた。前者については、ランダムに学生に質問する機会を増やした。また、後者については全てに対応はできていないが、気づいたところはカラーに変える対応をした。	中間アンケートでは改善意見とともに、「詳しく解説が聞ける」「スライドがわかりやすい」などポジティブな意見も見られ、概ね学生のニーズに応えられている授業であると自己評価する。今後も双方向の授業を意識して、学生への質問の機会を増やす、リアクションペーパーを取り入れる、などできるところから学生の授業への積極的な参加の機会を設けたい。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	吉井 珠代	公衆衛生学	今回の中間アンケートでは、概ね良好な回答が多く、特に授業改善の要望がなかったため、後半の授業もゆっくり・わかりやすく・丁寧な説明を心がけた。	今回のアンケートは最終日に実施したが、当日に欠席者が3名いて79%の回答率であったが、「到達目標に呈する達成感」は、昨年に比しかなり上昇していた。全体の成績は昨年度とほぼ同様であったが、アンケート結果は、「ほとんど達成できた」が14.3%、「かなり達成できた」が29%であり、昨年度の結果より10ポイント上昇していた。今年度の授業では、モチベーションを維持させるため中間テストを実施したが、次年度も同様になりたいと考える。
ラ	伏木 真理子	英語（英会話A） い組	テキストをもっと早く進めてほしいとの声があったので、米国での生活や仕事の体験談を減らして、設問の解答や文法の解説を中心に先へ進むようにした。テキストの本文等の和訳がほしいとの声があったので、印刷して配付するようにした。	アンケート結果は、達成できた80%、達成できなかった20%だった。習熟度別クラス編成で習熟度が高いほうのクラスであり、成績は秀が40%、優が44%だった。英語の基礎力を固めるという点、日常生活やビジネス分野の語彙の習得という点では、達成できたと思う。但し、一部の学生にとっては易しすぎる内容であったと思われる。ペアワークでは声をしっかり出しているため、クラス全員で唱和するよりもペアワークを増やすようにしたい。
		英語（英会話A） ろ組	テキストの本文等の和訳がほしいとの声があったので、印刷して配付するようにした。	アンケート結果は、達成できた75%、達成できなかった25%だった。習熟度別クラス編成で習熟度が低いほうのクラスであり、成績は秀が17%、優が29%、良が17%、可が30%だった。英語の基礎力を固めるという点、日常生活やビジネス分野の語彙の習得という点では、達成できたと達成できなかったの二極化が見られた。大学生用のテキストの中で易しいレベルのものを選んでいますが、一部の学生にとっては難しすぎる内容であったと思われる。ペアワークでは声をしっかり出しているため、クラス全員で唱和するよりもペアワークを増やすようにしたい。
ラ	黒田恭史	文書処理演習Ⅱ (Word)	進度を調整しました。	ほどよいスピードに、少しはなったのではないかと思います。
ラ	岡本久仁子	表計算演習Ⅱ	中間アンケートでは、授業方法などに一定の評価を受けていたので、継続した。	一部の学生はぎりぎりの評価であったが、ほぼ良い成績であり、到達目標を達成したと思う。きめ細かな指導を続けていきたい。
ラ	堀口 節子	カウンセリング概論	アンケートにて「スライドが分かりやすい」との評価が多かったため、文字だけでなく図や表を使用して目で見て分かりやすい授業を工夫した。また、「話すスピードが速い」との指摘があったので、学生の様子をみながら、ゆっくり話すように心がけた。その結果、全部の学生が「改善の取り組み」の質問に、ややそう思う～そう思う、と答えており改善が認められたと考える。	シラバスの達成目標の質問に9割近い学生が、かなり達成できた～ほとんど達成できた、と評価している。一定の評価は得られたと考える。しかし、テストの成績にばらつきが多く、今後も学生が興味を持って楽しく参加できるような授業、グループワークや実習を取り入れた授業を夫していきたいと考える。
ラ	寺石 佳世	健康・栄養クッキング	中間アンケートでは、学生さんからの要望が特になかったのですが、調理をしながら、難しい部分はより詳しく説明をしたり、それぞれの授業テーマの内容について解説したりしました。	ほとんどの学生さんが目標を達成できたと感じています。さらに達成のレベルを上げるために、予習・復習の時間を増やせる工夫をしていく必要があると考えます。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	能美 智子	医療事務Ⅲ (DPC含む)	ほとんどの学生が、課題提出や授業への取り組みが良く、グループワークも上手く調和がとれていたように思います。	授業に取り組む姿勢は良いのですが、テストをした時の臨機応変さが少し足りない学生が見られました。その辺りも日ごろから自分で考えて答えを導き出すプロセスを入れておく必要を感じました。シラバスの到達目標については全員が合格ラインだと思います。
ラ	森石加世子	家族心理学	ノートに記載する必要のある点について、より明確に学生に伝えるようにした。	ほぼ、シラバスの到達目標に達成できたと考えられたが、より達成できるように、授業内容を工夫したい。
ラ	倉津三夜子	アロマセラピ(演習含む)	中間アンケートの記述をみると、「休憩時間が短い」とあったので、改善を試みました。授業のはじめの頃は、通常授業時間を2つに分けて、間の休憩時間を10分にしていたが手持ち無沙汰な感じで過ごしている様子を見て休憩時間を6、7分にしていました。中間アンケートのあとは休憩時間を10分から12分にして、ホワイトボードの左側にタイムスケジュールを記し、各時間枠のテーマをわかりやすく記すようにしました。そうしたところ、なんとなく気だるい雰囲気であったのが解消され、軽く快適な教室になりました。	本年度の学生は、例年に比べて、授業時間の私語があまり無く、机に臥して気だるそうにしたりすることもなく授業は進めやすかったのですが、関心を持って授業を受けているのか、わかりにくい状態でした。けれど、授業評価アンケートと学生の成績から見ると、シラバスの到達目標は8割以上は達成できたと感じます。今後の課題は、現状では受け身になりがちな授業なので、今後は積極的に表現できる授業にすることです。そのためには、学生同士がお互いに実習で作ったアロマクラフトの香を比べあったり各自の感想を言葉にして表現するなどといった機会を増やしたいと考えています。
ラ	鶴田 美香	色彩とファッション演出	ペア・グループワークの導入時間を増加 自分の似合う色を互いに診断しあうワークや、テーマに沿ったコーディネート提案など、双方向の学びができる活動を増やしました。生徒同士のコミュニケーションも活性化し、学習意欲向上にもつながっています。 ビジュアル教材の強化 難解な用語や理論には図解や写真を多用し、視覚的に理解しやすいスライドを作成。ファッションの配色例を比較しながら、感覚的にも理解できるように工夫しました。	授業において、授業評価アンケートでは「内容が分かりやすかった」「実生活に活かせる内容だった」といった肯定的な回答が多く見られ、総合的に高い評価を得ることができました。 また、学生の成績も全体として良好であり、多くの学生がシラバスで掲げた到達目標、すなわち「色彩の基本理論を理解し、ファッションに応用できる力を身につける」という点において一定の成果を上げていました。特に、課題提出物やプレゼンテーションでは、自分なりの色彩理論の活用が見られ、実践的な理解が進んでいることが確認できました。
ラ	三埜 保	国内観光地巡り	ホワイトボードを地図に見立てよりわかりやすいように記載し、観光地の位置をより把握できるように改善した。	日本国内の地理や観光地に関する知識を、地図を使いながら理解できた点は、大きな達成点だと思います。 歴史や文化と観光地を画像を取り入れながら結びつくよう理解できた点は、達成できたと考えます。より興味を持ち積極的に取り組めるよう、経験したことなど発表してもらう機会をつくれるよう工夫したいと思います。
ラ	入野 遥	JAZZ I	熱中症対策について教務課の先生方に案を求め対応して頂いた。	シラバス通りではあるが、もう少し振り付けに時間を掛けても良いと感じた。もしくは授業内容のレベルを下げる。その時その時で生徒の様子を伺いながら進める必要がある。
ラ	兵頭眞由美	ビジネス実務演習	中間アンケートでの、授業に関する良い点として、「授業の進め方、スピードがちょうど良い」、「問題解説が細かく説明してもらえ、とても分かりやすい」、「コミュニケーションをとりながら覚えることができる」、「ビジネスにおける正しい敬語がよく学べる」などのコメントをいただきました。また、授業についての改善点では、無記入または「特にない」など好評でしたが、さらに学びを深めてもらえるよう、小テストや課題、演習問題で苦手なところを確認しながら授業を進めました。	アンケートと最終評価によりシラバスの到達目標も概ね達成できたと考えます。 今後のクラスでも理解を深めてもらえるよう課題、小テスト、演習など、授業の進め方など工夫してまいります。
ラ	能美 智子	医療事務Ⅲ (DPC含む)	ほとんどの学生が、課題提出や授業への取り組みが良く、グループワークも上手く調和がとれていたように思います。	授業に取り組む姿勢は良いのですが、テストをした時の臨機応変さが少し足りない学生が見られました。その辺りも日ごろから自分で考えて答えを導き出すプロセスを入れておく必要を感じました。シラバスの到達目標については全員が合格ラインだと思います。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	藤堂 隆司	診療情報管理論B (医療法規含む)	授業の進め方は、中間アンケート以降も、ゆっくりとしたペースで進め心掛けた。次回の授業の内容について、ネットで調べさせた。中間アンケートでは、改善点はなかった。また、授業に対する質問を調べたかについては、そう思う：19% ややそう思う：75% あまり思わない：6%であった。問1中間アンケートで出された意見、要望に対する取り組みについて…そう思う、ややそう思う：85% 問2 授業への積極的な参加の工夫について…そう思う、ややそう思う：71% 問3授業への復習・予習について…30分未満：85%	問4 授業のシラバスの示している到達目標の達成度…100% (ほとんど達成：29% かなり達成：42% 少し達成：29%) 最終試験の成績については…S：67% A：28% 失格者：1名となった。
ラ	伴 裕果	キャリアデザイン [A・B]	キャリアという特性上、内面を掘り下げ、表現することと、就職活動に備えてマナーや表現方法について細かな指導を行った。発表発言およびグループワークの機会が多いことが好ましいと挙げていた割合が多く後半はそれらをより充実させた。一方で、プライバシーや苦手項目に触れられることに抵抗を訴えるという声も挙がったため、それらを取り上げる意味を改めて伝えるとともに、極力長所伸展を目指し苦手意識よりも自己効力感をあげることを目的の中心とし、また、デリケートな項目についての指摘は個別対応するなどを心がけた。また課題が多く難しいという意見を踏まえ、授業内で具体例を挙げて解説するようにしたこと回答内容の充実が見られた。就職活動に備えスーツの着用を求めたが、暑い中大変だとの意見を踏まえ、状況に応じて臨機応変に対応するよう伝えたと、節度ある私服についての新たな学びの機会ともなった。学生の改善案を踏まえて議論することでより主体的な参加が見られるようになりいい機会となった。	意見、要望への取組みについてと、積極的参加を促す工夫は、到達目標については、概ね100%が実施、達成したとの回答が得られた。これらは、中間アンケートの内容を学生とともに議論し、有効案を検討、実施したことで学生が当事者意識と授業内活動の意義、自身の発言の有用性が認識できたものと推定する。成績については57%がS,Aであり、A,B、2クラスの内、中間アンケートおよび授業全体において、授業に対する要望や質問がやや多かったBクラスの方がややSが多かった。これらから学生の積極的、主体的な参加が学修に寄与すること、また学生と講師の交流が影響すると見て、今後もより学生が主体的に参加できるよう工夫を続けたい。
ラ	瀬口昌生	プレゼンテーション概論	中間アンケートにおいては大きな改善要求はなかったため、引き続き個人へのアドバイスを細かく行うことに留意した。	プレゼンテーション技術の向上は個々により伸びしろが異なるため、 1) 先に進めそうな学生には次の課題を、 2) 作成に時間がかかる学生には、ひとつのテーマに関する掘り下げをそれぞれ投げかけていった。受講生は一律に表現力があり、頼もしくもあった。今後も、各々の個性にあわせた指導を心がけたい。
ラ	杉本 篤史	簿記入門	後半の授業は演習が多くなるので個々の理解度を理解するように気を付けた。	簿記の特性上自主学习が重要になるが自己学習の時間を確保する学生が少なかったように感じる。ただ、最終の課題については、すべての学生が基準を超えていたので頑張ってもらったと思った。
ラ	数藤 晶子	テーブルコーディネート & テーブルマナー	講義と実習が繋がっている授業のため、習ったことをすぐ実践することにより、理解を深めてもらえるように心がけた。 中間アンケートで、時間が足りないとの意見があり、課題の取り組みなど授業内で時間をとったが、仕上がりに個人差があり、課題が先に終了した学生には、他の課題を用意した。提出課題については、できるだけ評価を口頭で伝えたり、コメントを記載し返却することで、今後の参考にしてもらえるように指導した。	実際のグッズを使用し実習をしてもらったことにより、よりテーブルコーディネートやマナーへの意識が変わり、取り組みについても授業が進むにつれ上達が見られた。ただ理解度のレベルは、筆記による試験では顕著に差が出ており、今後の課題となった。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	竹内 和奏	HIPHOP III	鏡が少なく見えないことがありましたので交互に見ながら、そして授業のラストに設けている自主練習時間では共有しながら全員が見えるように工夫しました。	今年度から授業の中で組み込んでいるテストの後にしっかり文章として分かりやすいようにフィードバックをするようにして、それをすることで中間に行ったテストとラストに行ったテストとではしっかり技術も上がり、改善されてるような感じました。その点ではこれからもフィードバックを文字にしてお渡しすることを続けて行きたいと思っています。
ラ	堀口 節子	カウンセリング概論	アンケートにて「スライドが分かりやすい」との評価が多かったので、文字だけでなく図や表を使用して目で見て分かりやすい授業を工夫した。 また、「話すスピードが速い」との指摘があったので、学生の様子をみながら、ゆっくり話すように心がけた。その結果、全部の学生が「改善の取り組み」の質問に、やや思う～と思う、と答えており改善が認められたと考える。	シラバスの達成目標の質問に9割近い学生が、かなり達成できた～ほとんど達成できた、と評価している。一定の評価は得られたと考える。しかし、テストの成績にばらつきが多く、今後も学生が興味を持って楽しく参加できるような授業、グループワークや実習を取り入れた授業を夫していきたいと考える。
ラ	篠原 富美子	調剤請求	中間アンケートにてひとりひとりを大事にしている点を評価されていたので引継ぎ継続した。また解答を求めることはやめて欲しいという要望があり1名ではあったが、負担がかからない方法を考えた。質問の前に正解が分かるように説明し確認という形で進めた。自主的に学ぶのに時間が足りていない様子であった為こちらが問題を厳選し解くという工夫をした。理解したいという気持ちの学生に対して授業後15分の個別指導を提案した。	あまり達成できなかったが20%であった。初回授業よりシラバスを目安とし予習復習する旨を伝えていた。毎回の授業で確認し自分の理解度を把握してもらった。 実際にシラバスにアクセスしたかは分からなかったが意識付けは行なえたと感じている。成績については評価と達成度とが重なっていたことから、シラバスを意識し勉学に励めば目標達成できることを示唆していた。今後はシラバスとの関連付けを目に見える形で行うこととしたい。



令和7年10月吉日

各 位

四條畷学園短期大学
教学委員長 工藤真由美

学生による「授業評価アンケート」の実施について

平素より本学の教育・学生指導にご尽力賜り、心より厚く御礼申し上げます。
本学では授業改善・教育力向上に向け、授業評価アンケートの実施に取り組んでおり、今年度の実施をお願いする次第です。

授業評価アンケートは、授業到達目標の達成度（学修成果）を基準にして、学生・教員双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にすることを目的としております。また、中間アンケートを実施することで、授業の課題・改善点を浮き彫りにし後半の授業に反映させることで、学生の授業への参加意識を高め、授業到達目標の達成度を高めるねらいがあります。

なお、授業評価アンケート結果に基づく「授業評価アンケート報告書」のご作成と、本学ホームページでの公開も予定しております。あらかじめご了承ください。

何卒趣旨ご理解の上、ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。なお詳細・日程につきましては、別紙『授業評価アンケート実施要領』をご覧ください。

授業評価アンケート実施要領

教学委員会

ねらい

- 学生の満足度による授業評価ではなく、授業の到達目標の達成度（学修成果）を基準に学生・授業担当者双方が評価することで、授業の課題・改善点を明確にする
- 中間アンケートの導入により、学生の授業への参加意識を高める

授業評価アンケート 実施対象

- 専任教員： 担当授業科目のうち 任意の2科目（又は同一科目2クラスでも可）
 非常勤教員： 担当授業科目のうち 任意の1科目＝1クラス

※注 複数の授業担当者が15回授業の途中で交代するオムニバス授業は、中間アンケートの結果が反映されないので授業評価アンケートの対象から除外

実施スケジュール

9/15(月) ~	授業 1回目~	授業の到達目標の周知 ・シラバス記載の到達目標（授業終了段階で、学生にできるようになってほしい事柄）を学生に明確に示す
10/27(月) ~11/7(金)	授業 8回目頃	授業評価「中間アンケート」の実施 ★1 1. アンケート用紙を授業担当者が学生に配布（事務室で必要枚数を受け取って下さい） 2. 学生が回答した用紙を授業担当者が回収 *教学委員会に提出は不要です 3. 翌回、学生の意見・要望等をフィードバック、授業改善に活用する
12/15(月)~1/9(金) ライオン総合学科 12/22(月)~1/16(金) 保育学科	授業 14~15回目	授業評価アンケートの実施 ★2 ・学生がユニパにログイン、回答する ・アンケート集計結果の閲覧期間 <u>1/21水~2/28土</u> *システム上、学生は結果を閲覧できません
2/17(火) 〆切	成績評価後	授業評価アンケート報告書の提出 ★3 ・授業担当者がユニパにログイン、回答する

★1~3 時期が近づきましたら、ユニパ配信でお知らせする予定です

《中間アンケート》

- 問1 この授業の良い点を具体的に述べて下さい。
- 問2 この授業について改善してほしい点を具体的に述べて下さい。
- 問3 あなたは、授業中の分からないことや不明な点を質問したり調べたりしましたか。
1. そう思う
 2. ややそう思う
 3. あまり思わない
 4. そう思わない

《最終アンケート》

- 問1 中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか。
1. そう思う
 2. ややそう思う
 3. あまり思わない
 4. そう思わない
- 問2 この授業は、積極的な参加を促すための工夫（質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなど）がされていましたか。
1. そう思う
 2. ややそう思う
 3. あまり思わない
 4. そう思わない
- 問3 この授業の予習・復習および課題に当てた時間は、1週間でどのくらいですか。
1. 2時間以上
 2. 1～2時間
 3. 30分～1時間
 4. 30分未満
- 問4 この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。
1. ほとんど達成できた（90～100%）
 2. かなり達成できた（80～89%）
 3. 少し達成できた（70～79%）
 4. あまり達成できなかった（60～69%）
 5. ほとんど達成できなかった（59%以下）

《授業評価アンケート報告書》

（各欄 300 字以内）

- 問1 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。
- 問2 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい（今後の課題も含む）。



授業評価アンケート（中間アンケート）

このアンケートは、履修生の学修成果を上げるため、授業をより良くする目的で実施するものです。記述内容は成績評価に関係しません。

問1 この授業の良い点を具体的に述べて下さい。

問2 この授業について改善してほしい点を具体的に述べて下さい。

問3 あなたは、授業中の分からないことや不明な点を質問したり調べたりしましたか。（あてはまるもの一つに○をつけて下さい）

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. そう思わない



各 位

令和 7 年 12 月 吉日

四條畷学園短期大学
副学長・教学委員長 工藤真由美

授業評価アンケートの実施および報告書ご提出のお願い

平素より本学の教育・学生指導にご尽力賜り、心より厚く御礼申し上げます。
今期授業も終了に近づいて参りました。「中間アンケート」を実施した科目(クラス)につきまして、授業評価アンケートの実施を下記の通りご案内申し上げます。
校務ご多忙の折大変恐縮ではございますが、授業改善・教育力向上に向けご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

記

実施期間 : 授業回数 14 回目もしくは 15 回目 (保育学科 : 12/22~1/16、
ライフデザイン総合学科 12/15~1/9 ; 補講の場合含む)
※年間行事予定・ユニパの出欠管理で授業回数の確認ができます

実施対象科目 : 「中間アンケート」を実施した科目 (クラス)

実施方法 : p2 マニュアル : 学生用【授業評価アンケートの回答方法】参照
※授業評価一覧には、学生の履修授業がすべて表示されます。
教員の指示する授業科目のみに回答させて下さい。

結果の閲覧 : p3 マニュアル : 教員用【授業評価アンケートの閲覧・授業評価アンケート報告書の回答方法】参照
※実施科目以外の科目名が表示される場合がありますが、学生が間違えて回答したものです。学生は結果を閲覧できません。

※授業評価アンケート

結 果 閲 覧 期 間 : 令 和 8 年 1/21(水)~2/28(土)

報 告 書 作 成 期 限 : 令 和 8 年 2/17(火)

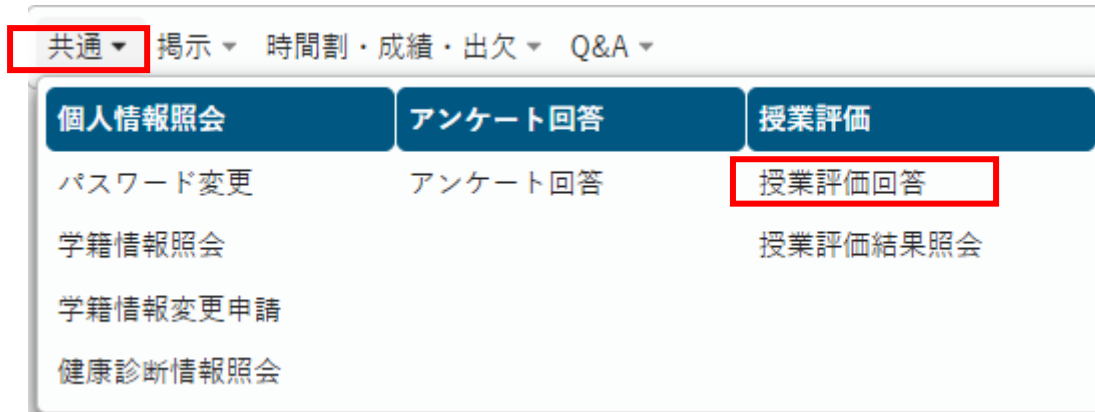
※ユニパのアンケートに回答する形での報告書作成となります。授業評価アンケートの結果について、中間アンケート・学生の成績(学修成果の状況)と関連づけ、ご考察下さい。

以上

学生用

【授業評価アンケートの回答方法】

- ①パソコンまたはスマートフォンから UNIPA へログインします。
- ②「メインメニュー」⇒「共通」⇒「授業評価回答」を選択します。



- ③回答する「授業科目名」をクリックします。
- ④アンケート内容が表示されますので、全ての問いに回答してください。
- ⑤すべての回答が終了したら、下部にある「回答」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the '授業評価プレビュー' (Course Evaluation Preview) page. At the top right, it says '差出人：FD委員会'. The main content is titled '【短期大学】授業評価アンケート'. Below the title, it says '授業評価アンケートです。回答をお願いいたします。'. There are four questions with radio button options:

1. 問1 中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか。
 そう思う ややそう思う あまり思わない そう思わない
2. 問2 この授業は、積極的な参加を促すための工夫（質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなど）がされていたか。
 そう思う ややそう思う あまり思わない そう思わない
3. 問3 この授業の予習・復習および課題に当てた時間は、1週間でどのくらいですか。
 2時間以上 1~2時間 30分~1時間 30分未満
4. 問4 この授業のシラバスに示されている到達目標をどの程度達成できたと思いますか。
 ほとんど達成できた (90~100%) かなり達成できた (80~89%) 少し達成できた (70~79%) あまり達成できなかった (60~69%) ほとんど達成できなかった (59%以下)

At the bottom, it says 'ありがとうございました。' and there is a '回答' (Answer) button highlighted with a red box.

UNIVERSAL PASSPORT

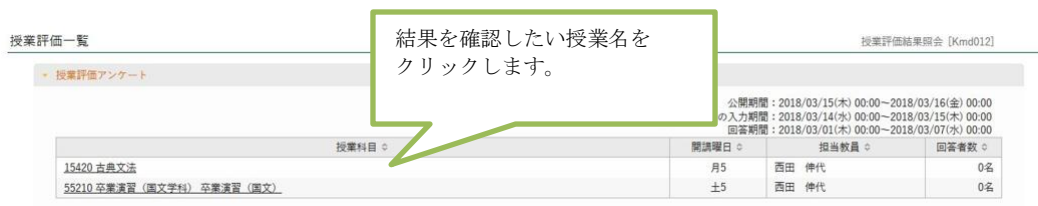
教員向け授業評価アンケート閲覧方法

授業評価アンケート結果を確認する。

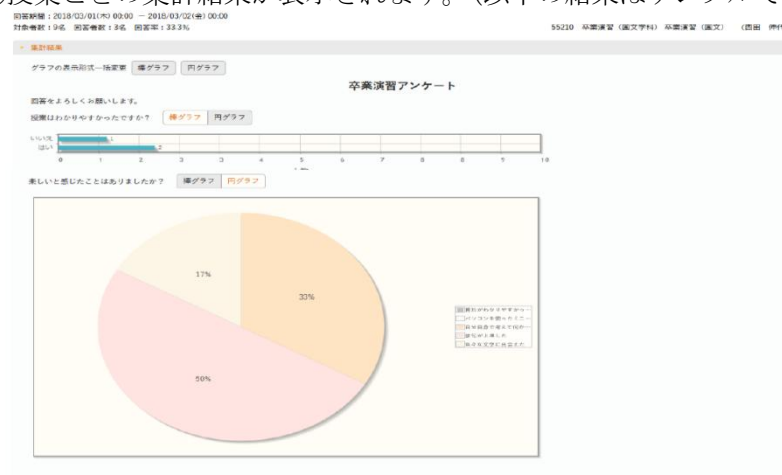
- ①メインメニュー → 授業関連 → 授業評価結果照会を開きます。



- ②【授業評価一覧】画面が表示されます。



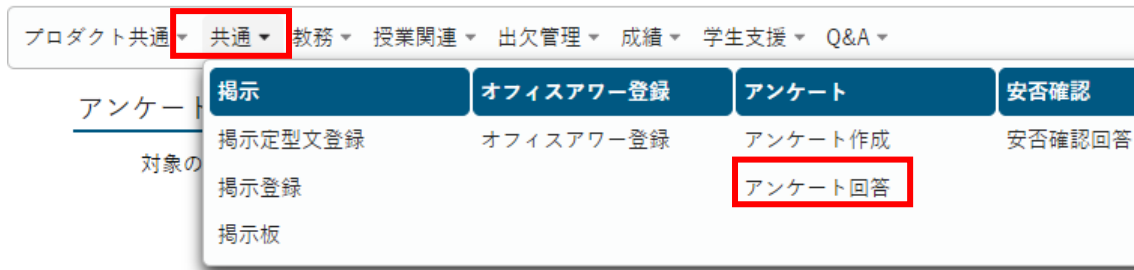
- ③授業ごとの集計結果が表示されます。(以下の結果はサンプルです)



UNIVERSAL PASSPORT

授業評価アンケート報告書 作成方法

①メインメニュー → 共通 → アンケート → アンケート回答を開きます。



②授業評価アンケートを実施された科目についてご入力ください。

アンケート実施科目

1 科目・・・項目1～8まで

2 科目・・・項目1～16まで ご回答ください。 よろしくお願いたします。

アンケートプレビュー

回答期限: 2025/02/19(木) 23:59 差出人: FD委員会

【短期大学】授業評価アンケート報告書

授業評価アンケートを実施された科目についてご入力ください。
よろしくお願いたします。

1. 【年度】
2. 【学期】
3. 【授業コード】
4. 【科目名】
5. 【お名前】

以下の質問にお答え下さい。(各300字以内でお願いします。)

6. 1. この科目(クラス)を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。

回答後は、下部【回答】ボタンを押して終了してください。

2025年度後期 「授業評価アンケート」 報告書

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	合田 誠	保育実習指導Ⅲ	中間アンケートでは、受講生からの要望はなかったので、後半も従来通りの授業を行った。	成績は受講生全員は合格点であった。学生自身が評価した到達目標達成に関して、「ほとんど達成できた」、「かなり達成できた」を回答者全員が選択している。 しかしながら、授業担当者としては、この結果とは裏腹に、学生の成績結果と到達目標達成については、「乖離」があるように感じている。 今後は、この「乖離」を少なくするためにも、現状の学生に応じた学習内容を工夫していきたい。
		社会福祉概論	中間アンケートで、受講生殆どが改善点はないとの回答であった。1人だけ、ノートの記述をなくして、授業内容をペーパーにして虫食い方式をとってほしいとの要望が記述されていた。その要望については、中間アンケートの翌週に早速、返答しておいた。つまり、虫食い方式では、前後の授業内容を理解して記入できればよいのだが、ただ、用語等を書き写すことに重点が置かれてしまい、授業内容を聞いていないパターンが危惧されるので、ノート記述の必要性、有用性を説明した。 後半も前半と同様に授業を進めたが、受講生からの意見等は出なかった。	できる限り、「社会福祉」の基本を説明することにウエイトを置いた。また、成績の工夫として、毎回「授業課題ペーパー」を課すことによって、できるだけ「平常点」の拡充を試みた。その結果、不合格の受講生はなかった。 ただし、シラバスに示される到達目標の達成については、「かなり達成できた」と「少し達成できた」が80割であり、満足度はそれ程高くはなかったと判断している。 今後は、受講生自身がもう少し、社会福祉を学んでの充実感が感じられるような授業内容としたい。そのためにも、日常の具体的な出来事に直結した授業を考えたい。授業内容の工夫に努めたい。
保	鍛治谷 静	教育実習指導Ⅰ (1・2組)	中間アンケートでは「遊びの時間」「動画の視聴」「具体的な説明」が良かったとの感想が複数あった。資料の配信の要望があり実習前になったが応じた。「分かりやすい」の他に「質問しやすい」との声もあり、授業の進むペースが学生に合っていたのだとしたら、他の科目の進行を見直す必要があるかもしれないと気づかされた。	学生の自己評価と成績に大きな齟齬はなかった。しかしこの科目の学修成果は何より「教育実習」での学生の姿に反映されるので、実習における学生の課題を整理し次年度の授業改善につなげたい。
		教育実習指導Ⅰ (3・4組)	1・2組と同様の感想だったが、「教員と話しやすい環境が良い」「優しい」「落ち着く」が目についた。授業環境の心理的安全性に関わるような感想が多いことから、実習に対する不安を受け止め解消することがまず必要であると思われた。改善の要望はなかった。	学生の自己評価と成績に大きな齟齬はなかった。しかしこの科目の学修成果は何より「教育実習」での学生の姿に反映されるので、実習における学生の課題を整理し次年度の授業改善につなげたい。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	香月 欣浩	幼児と図工Ⅱ (1.2組)	振り返りシートなど、書くものを減らしてほしいというコメントが何人かからあった。学生の気持ちはよく分かる。 しかし大切なことであるので、その重要性を伝え、最後の授業まで励まし続けた。	「中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか」について概ね良好な回答でほっとしている。また「この授業は、積極的な参加を促すための工夫(質疑応答、課題の発表、グループワーク、コメントペーパーなど)がされていたか。」に対しても80%がそう思うと回答してくれており、環境設定の効果があったのではないかと考えている。 最後に授業目標の達成についても、80パーセント以上が、「ほとんど達成できた」「かなり達成できた」としており、安心した。次年度もさらにブラッシュアップしていきたい。
		幼児と図工Ⅱ (3.4組)	片付けが面倒くさいなどのコメントがあった。 制作に夢中になり、片付けの時間が無くなることがあるので、タイマーをセットし、終わりの時間を明確に伝えるようにした。	最後に授業目標の達成についても、80パーセント以上が、「ほとんど達成できた」「かなり達成できた」としており、ほっとした。 慢心せず次年度もさらにブラッシュアップしていきたい。
保	金川 朋子	特別支援教育総論2 (1.2組)	発表機会のねらい、意義を、改めて説明をして、授業を進めた。 発表する前に、自分の考えを文字化してから、発表させた	学生間の意欲の差が大きい。 課題に取り組み、発表させてきた。
		特別支援教育総論2 (3.4組)	発表の機会を嫌がる傾向にあったので、その意義を、改めて説明をした。 クラスルームを活用して、課題に取り組む機会を作った	授業態度、意欲に学生間に違い、差があるが、個々で取り組む機会を、時間を保障してとりくんだ。
保	阪江 豪	教育の方法・技術論	保育者になってから参考になるよう、これまでの講義の振り返りとともに、模擬保育・グループワークを交えて実施した。	概ね到達しているが、個々の理解の差が見られる。
		幼児と言葉	学生がイメージ・理解しやすいように事例・動画等を交えて授業を実施した。	概ね到達しているが、個々の理解の差が見られる。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	阪野 学	子ども家庭福祉	毎回の授業のチャトルシートで学生たちから要望を挙げてもらっており、何か要望があれば必ずリアクションしている。したがって特段アンケートでは要望は無かった。しかし、授業の中ではパワーポイントが見にくい、教科書にマーカーをすることが分からない、進度が早い、難しい用語が多く分かり難い等と云った要望があったのでその都度対応し改善を図っている。	チャトルシートの取り組みを行っている。初回の提出では、問題の解答及び授業内容についての考察文を作成させ提出してもらった。そして、返却後解答の答え合わせと間違いの修正、添削された考察文の修正をしてもらい再提出をもらっている。授業内容の習熟だけでなく学生たちにアカデミックライティングについて身に付けてもらうのが狙いである。評価としては、まじめにさえ取り組みれば高得点が十分に狙える内容となっている。しかし、学生に過度な負担が無いように学外授業時間も踏まえながら見ていく必要がある。 ①授業評価平均点 60点（最高点97点、最低点2点 再試験17/30） ②シラバス到達度 ほとんど21%、かなり31%、少し34%、あまり3%、ほとんど7% ③学外学修時間 2時間以上7%、1～2時間31%、30分～1時間31%、30分未満31% シラバスの到達度としては、あまり・ほとんどは合計10%であり到達目標は達成していると考え事ができる。4月からの2年の前期の科目で①の改善を図りたい。
		子育て支援	毎回の授業のチャトルシートで学生たちから要望を挙げてもらっており、何か要望があれば必ずリアクションしている。したがって特段アンケートでは要望は無かった。	チャトルシートの取り組みを行っている。初回の提出では、問題の解答及び授業内容についての考察文を作成させ提出してもらった。そして、返却後解答の答え合わせと間違いの修正、添削された考察文の修正をもらい再提出をもらっている。授業内容の習熟だけでなく学生たちにアカデミックライティングについて身に付けてもらうのが狙いである。評価としては、まじめにさえ取り組みれば高得点が十分に狙える内容となっている。しかし、学生に過度な負担が無いように学外授業時間も踏まえながら見ていく必要がある。 ①授業評価平均点 66点（最高点95点、最低点26点 再試験9/30） ②シラバス到達度 ほとんど25%、かなり45%、少し25%、あまり5% ③学外学修時間 2時間以上15%、1～2時間30%、30分～1時間45%、30分未満10% シラバスの到達度としては、あまり5%のみ到達目標は達成していると考え事ができる。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	千田 耕太郎	幼児と音楽Ⅱ (1・2組)	中間アンケートの結果、授業の改善に関する要望は殆ど無かったが、教員全員で共有し、後半の指導にあたった。	シラバス到達目標の達成状況について、学生アンケートの回答結果と実際の成績を比較してみると、学生は客観的に自己評価ができていていると感じた。ただ、より到達度を上げるためには、ピアノの予習復習の時間を増やす必要があると考える。
		幼児と音楽Ⅱ (3・4組)	中間アンケートの結果、授業の改善に関する要望は殆ど無かったが、教員全員で共有し、後半の指導にあたった。	シラバス到達目標の達成状況について、学生アンケートの回答結果と実際の成績を比較してみると、学生の自己評価は実際の成績よりも良い傾向にあった。より到達度を上げるためには、学生個々の到達状況をピアノ担当教員から逐次伝えることと、ピアノの予習復習の時間を増やす必要があると考える。
保	森 麻希子	幼児と音楽Ⅳ (4・5・6組)	ピアノだけでなく合奏、合唱がたくさん学べて嬉しい、ピアノを練習できる時間がある、など良い点を述べた学生がほとんどだった。 改善してほしい点は、忙しい、合奏の時間をもう少し増やしてほしい、という意見が一部見られた。授業内発表を課していたこともあり、本番前の数回については十分に練習時間とリハーサル時間を取れるように計画していたため、学生には改めて説明した。	評価割合についてS,Aが合計で65%、Bが35%だった。予習復習を充分にした学生数とほぼ同じ割合となった。実技科目であるため、日々の積み重ねが反映された形となったと考える。
		幼児と音楽Ⅳ (1・2・3組)	良い点について、先生が親身に教えてくれるから頑張ることができる、色々な楽器にも触れることができるので楽しいなど様々な意見が見られた。改善点については、グループブレスン時に出席番号で座りたい、取り組み曲について難しさを感じているといった声の一部見られた。座席については配慮し、難しさを感じている学生へは個別のフォローを行った。	アンケート結果の自己評価と成績割合について大きな相違は見られなかった。実技科目であるため日々の取り組みが大きいと、学生がモチベーションを保ち、取り組みを継続できるように今後も工夫していきたい。
保	松下 明日香	保育実習指導Ⅱ (1・2・3組)	改善点に関するコメントは特になかったが、模擬保育をおこなった後にカンファレンスを行うことで、一人一人からコメントをもらえ、気づきに繋がるという記述が複数あった。模擬保育とカンファレンスは学生主導でおこなうものの、議論する時間が十分にとれるよう時間配分や協力できているか等を見守り、必要な時は支援をおこなった。	回答者全員が到達目標を70%以上達成できていると回答しており、また学生の授業への取り組み状況と成績からも、おおむね到達目標を達成できたとと言える。
		保育実習指導Ⅱ (4・5・6組)	パワーポイントや説明が分かりやすく丁寧だという意見があった一方で、説明が理解できないことがあるというコメントも1件あった。学生の理解度に差があること踏まえ、全体での説明後に学生たちの様子を見て回り、個別に対応するよう心掛けた。	回答者全員が到達目標を70%以上達成できていると回答しており、また学生の授業への取り組み状況と成績からも、おおむね到達目標を達成できたとと言える。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	竹歳賢一	情報機器演習 (1・2組)	授業の進度が早いと感じる学生がいたので、できるだけ理解度を確認しながら授業を進めた。	シラバスの到達目標は概ね達成できた。この授業の予習・復習および課題に当てた時間が30分未満の学生が多かったことが今後の課題である。これに対しては、自宅でできる教材を準備するなどの工夫をしたい。
保	小川健二郎	社会的養護Ⅰ	授業内の学生の当て方への配慮や挙手制も取り組んでみたが、やはり挙手制はなかなか挙げてくれないので、できるだけ参加型となるように、近くの人で話してもらったり、適宜発言してもらっている。	概ね到達できたと思う。今回別の課題とともにアンケートを実施したので、回答率が低く感じている。学生が実際に社会に出た際に、活躍できるように現場の声を届け続けたいと思います。
ラ	山崎 久子	「在宅保育」 (1・2・3組) (4・5・6組)	・テキスト使用のリクエスト、大切なところの暗記の小テストのリクエストがあり、継続して各回ごとに取り入れた。	・各回におけるプリントでの課題作成ではそれぞれがきちんと取り組む姿勢が見られたがプリントの紛失、扱いについては個人差が顕著にあり、学生としての心構えを促した。各回でのシラバスの目標に対する課題回答は2年生後期とあって、一定の水準に達していた。今後の課題としては「在宅保育」の認知の浸透、施設保育との違いと共通として考慮されるべき
保	大庭 夕穂	英語(英会話B) (1・2組)	中間アンケートでは、「楽しい」「発言しやすい」との声がある一方、スライド進行の速さや私語への指摘があった。それを受け、板書時間を可能な限り確保し、学生の理解度を確認しながら進めた。私語への配慮や指導法を工夫し、話し合いと講義の時間を明確に区別して、学習環境の改善に努めた。	過半数の学生が到達目標を「ほとんど達成できた」と回答した一方、「ほとんど達成できなかった」との回答も1名あった。学生間で理解や自己評価に大差が生じないよう、目標共有と個別支援を充実させたい。また、本アンケートを授業の最終回に試験案内等と同時進行で依頼したため回答数が少なく、周知の重要性を痛感した。
保	辻本有里恵	保育内容総論	中間アンケートを受け、マイクを使用時に聞き取りにくさを改善するため、強弱や話す速さを改善した。また状況に応じてマイクを使用しない授業も取り入れ、学生の集中度向上を意識した。さらに、スライド使用時は教室を暗くしすぎないように配慮し、学生の一人ひとりの反応に目をむけ、集中しやすい環境をつくった。	シラバス到達目標には、おおむね到達できたのではないかと考える。一方で試験結果より、知識の定着に課題をかかえる学生も見られ、欠席が理解に影響する傾向があった。暗記に偏らず、理解を深めながら知識の定着の授業構成の工夫が課題である。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	堀口 節子	教育相談 (4・5・6組)	中間アンケートの結果を受けてパワーポイントの字を大きくし、図や表を取り入れて見やすい資料作りを行った。授業の中で一方的に講義をするだけでなく、事例問題や課題などを出題し、学生が自分で考え・発表する時間を取り入れた。アンケートの結果は9割の学生が「そう思う、ややそう思う」と回答しており、改善や工夫が評価されたと思う。	アンケートの結果、6割の学生が「かなり達成できた、ほとんど達成できた」と回答しており、一定の目標到達はできたと思う。しかし、毎回出している課題の回答や試験の成績は、出来ている学生と出来ていない学生の差が大きかった。また、4割の学生が「少し到達できた」と回答しており、今後は基本的な内容に加え応用問題にも対応できるような授業を工夫していきたいと思う。
保	福鹿 慶子	乳児保育Ⅱ (1・2・3・4組)	「いい経験になった」という前向きな感想をいただき、励みになっています。「特に要望なし」という声も多かったのですが、それに甘えることなく、さらに学生の力になる授業を目指して以下の工夫をしています。 演習では、保育現場でのリアルな事例をこれまで以上に紹介し、教科書には載っていない「援助のコツや根拠」を分かりやすく伝えていきます。また、学生同士で意見を交換する時間を大切にし、自分とは違う視点に触れることで、柔軟な判断力を養えるよう内容を充実させました。 技術を覚えるだけでなく、現場で大切な「子どもの心の声を聴く力」を育めるよう、学生の気づきに対して、より丁寧なアドバイスやコメントを返していきたいと考えています。	本年度は、乳児の発達理論に基づき、授乳・沐浴等の保育技術や、発達に応じた玩具(遊び)の提供、安全な環境づくりを重点的に教えました。 実務経験を交えた事例提示により、学生は「なぜこの援助が必要か」という根拠を理解し、専門家としての視点が育ったと思います。 アンケートでは「いい経験になった」と好評を得た一方、現状に満足する声も多く、今後は自己課題を見つけ出す「省察力」の向上が不可欠です。 今後は、対話を通じた「共有」を強化し、現場の多様な場面に対応できる「応用力」を養う演習を拡充します。確かな技術と感性を兼ね備えた保育者の育成に向け、フィードバックの質をさらに高めます。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	工藤真由美	教養の文学	中間アンケートの要望はなく、皆と意見交換できる時間が十分に取れて充実しているという意見を尊重した。その結果作品の解釈や疑問点を共有し、それを受けた形で自己の解釈を十分に掘り下げることができるように十分な時間を配分した。	「中間アンケートの結果を取り入れているか」は上記の通り行った結果100%がそう思うと回答した。「授業への積極的参加を促す工夫」についても100%がそう思うと回答した。狙い通りで、大変良かったと考える。また、予習復習に関しても、シラバスに15分から30分で記載しているので、30分未満が100%であるが記載通りであるため問題はない。最後に「シラバス記載の到達目標にたいして」ほとんど達成が50%、かなり達成が50%であった。実際の成績分布も同様の為、学生の自己評価と実成績は齟齬がなく、極めて高い水準で到達目標をしっかり達成できていると言える。今後も学生の要望を入れながら授業を実施していきたい。
		くらしと教育	中間アンケートの要望はなく、満足しているものとしてシラバス通り実施した。授業の密度わからない点や要望はないか確認するようにした。	「授業への参加を促す工夫」について、ややそう思うが100%で概ね伝わったと思われる。「予習復習」はシラバスの30分未満で提示しているので、30分未満が100%である。「シラバスの到達目標の到達度」に関しては、かなり達成が50%、達成が50%であった。一部の自己評価が上振れしている感も拭えないが、おおむね達成状況の自己評価と成績が一致していると言える。今後もう少し全員が発言できるように授業展開を工夫していきたい。
ラ	伊東めぐみ	医療事務2	中間アンケートの要望に基づき、解説速度の調整と演習時の個別指導を強化した。特に苦手意識の強い計算分野では、補助プリントを配布し、プリントの活用方法を丁寧に説明した。事後アンケートでも「取り組みが見られた」との評価を得ており、学生のニーズに応じた授業改善ができたと考える。	成績上位者は実務知識を十分習得し目標を達成したが、不可・失格者が約4割と多く、二極化が課題となった。アンケートでは演習の充実度を評価する声があったが、実際の評価では基礎知識の定着に差が出た。今後は、習熟度に応じたフォローアップを早期に行って、全体の到達度を上げられるようにしたい。全体の底上げを図る仕組みが必要であると考えている。
		医師事務作業補助実務演習	実務演習として書類作成の手順について、個別フォローの時間を増やし、質問しやすい環境を整えた。事後アンケートでも授業内容が改善されていると回答されており、柔軟な対応が功を奏した。後半は様々な書類の作成ができる回数を増やし、実践的なスキルの定着を促した。学生の理解度に合わせた説明となるように努めた。	全員が単位認定(可以上)に達し、最低限の目標はクリアした。しかし秀評価がおらず、成績は中位層に留まった。アンケートで判明した「自主学习時間の不足」が上位層への伸び悩みの要因のひとつと推察される。次年度は、意欲的な学生がより高みを目指せるよう、応用問題の課題提出の機会を増やし、より高い理解力、スキル定着を目指したい。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	安谷 元伸	卒業ゼミ(基礎) (安谷ゼミ)	中間アンケートの改善要望は見られなかったため、作品制作の時間のゆとりや作業量等に留意して授業を展開した。	アンケートの結果では、問1及び問2共に「そう思う」59%、「ややそう思う」36%と高い結果が見られた。しかし、問4のシラバス到達目標をどの程度達成できたかの項目では「あまり達成できなかった」と回答した学生が1名見られた。回答者数が受講人数より多いため、明確ではないものの創作活動が得意ではない学生でも達成感を抱けるよう内容の多様化をさらに進めていきたい。
		情報倫理	中間アンケートの改善要望として「パワーポイントの画面を変えるスピードを遅くしてほしい」という意見が1点見られたことから、提示資料の画面遷移の速度に注意し、書き留める内容の場合は次に行って良いか、学生への確認を行うようにして後半の授業を展開した。	アンケートの結果では、問1及び問2共に1名が「あまりそう思わない」と回答しており、情報提示について、さらに速度や内容、大きさ等を模索する必要性を感じた。また、問4では「あまり達成できなかった」と回答した学生が2名いることから、問1、2との関連性等も考えられるため、次年度以降は授業資料や展開について吟味を行い、ブラッシュアップを進めていきたい。
ラ	中川明仁	卒業ゼミ(基礎) (中川ゼミ)	特に改善の要望に関する意見は述べられていなかったが、ゼミという授業の特性上、1人1人の学生が主体的に取り組める課題を各回の授業で設けた。 具体的には、心理学実験や心理検査などを体験する機会を多く設け、ペアワークやグループワークを主体とした授業を展開した。	概ね受講生の満足度は高かったことから、主体的に授業に参加できる機会を多く設ける取り組みは今後も続けていきたい。
		恋愛の心理学	授業環境(照明や私語への対応)への意見が見られたため、その点は改善した。 具体的には中央の照明を点けているとスクリーンが見にくいという意見があり、消すようにした。また、私語をしている受講生には個別に注意をした。	座学が中心であり、受講生が積極的に参加できる機会が少なく、その点の評価がアンケートに表れていた。毎回は難しいが、授業に関する課題、振り返りシートの活用で、受講生が主体的に参加できる機会を今後は設けていきたい。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	吉井 珠代	介護概論	学生からの要求事項は少なかったが、視聴映像の文字色をより見やすくするため、緑色→濃いピンク色に変えたところ、学生にとっても見やすくなったようで、67%が、「思う：改善された」と解答したものと考えます。	今年度は、昨年度の授業内容より説明する項目を少なくして平易な授業を心がけたので理解が得られたのか、授業態度の良い学生が多く、成績も良好であった。 そのことから、「介護」はどの家庭にも訪れる身近な問題であるということが伝わったと考えます。次年度も、説明内容を吟味して取り組みたいと思います。
ラ	林 真千子	子どもの食と栄養 (Aクラス)	学生からのプリント数をもう少し減らして欲しいという要望については、必要事項はこれまですりし、配布物を減らす代わりにパワーポイントでの説明へと差し替え、授業の理解度を向上させるように工夫しました。	中間アンケート以後授業の改善を行ったことから、ほとんどの学生からは満足が得られ、シラバスの到達目標にほぼ達成できたように思われました。 しかし、筆記試験結果からは、授業内容の理解度が劣る学生も多く見られました。今後の課題としましては、学生が興味を持てるような授業展開に努めること、そして、授業内容の理解度を向上させる更なる工夫が必要であると考えます。
		食品・食材の知識A	学生から授業プリントについて要点を記入するスペースをもう少し広げて欲しいという要望があり、メモがとれるくらいの空欄を作りました。 これにより、学生が積極的に授業参加できるように促しました。	中間アンケート以後授業の改善を行ったことから、ほとんどの学生からは満足が得られ、シラバスの到達目標にほぼ達成できたように思われました。 しかし、授業内小テストの結果からは、授業内容の理解度がやや劣る学生も見られました。今後の課題としましては、学生が興味を持てるような授業展開に努めること、そして、授業内容の理解度を向上させる更なる工夫が必要であると考えます。
ラ	黒田 恭史	文書処理演習II (Word) 1h	学生がわからない際の対応に改善を試みた。	おおそ達成できたのではないかと考えている。
		文書処理演習II (Word) 2h	学生がわからない際の対応に改善を試みた。	おおそ達成できたのではないかと考えている。
ラ	入野 遥	バレエ	室内温度に関して、教室の変更をした。	生徒のやる気があるが故に達成出来ない部分もあるが、良いことなので問題ではない。 今後も今回のような生徒が集まるかは分からないので、臨機応変に対応して行こうと思う。
		JAZZ	室内温度に関して、教室の変更をした。	生徒のやる気のおかげで目標以上の事が達成できたと思う。今後も生徒のやる気を引き出せるような授業内容を考えて行く。
ラ	田尻 良	マルチメディア論	問題点の指摘が無かったため、特に改善・工夫なし、	概ね到達目標を達成できたと考えられる。 今後の課題はありません。
		マルチメディア演習	問題点の指摘が無かったため、特に改善・工夫なし。	概ね到達目標を達成できたと考えられる。 今後の課題はありません。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	岡本久仁子	文書処理演習Ⅲ	中間アンケートでは、自分のペースで進められること、質問に答えてくれることが高評価だったので、そのまま進めた。	マイペースでできることにより、それなりの成果をあげたようである。ただ、理解度が不足したところもあるようだったので、授業内容の定着および習熟のため、工夫していきたい。
ラ	鶴田 美香	カラーセラピー	授業参加人数が多かったので、席をまわり疑問点などの聞き取りをしました。理解不測の箇所の補う声掛けを積極的に行った。また考える力をつけるために、相手の作成して課題に対しての考察を行うのですが、匿名性を高めて自由記述をしやすいよう工夫した。	かなり達成から習得までの評価が多く理解できているようです。グループワークを行えない雰囲気があるので、なるべく交流の回数を増やし見識を広げてもらえるようにしたい。
ラ	寺石 佳世	調理学演習	中間アンケートでは、「いろいろなメニューを教わりたい」という要望がありました。予算の関係上、メニューの数を増やすのは難しいので、口頭でメニューの展開例、食材使用についての応用例を伝えるようにしました。	回答してくれた学生さんについては、概ねシラバスの到達目標を達成できたのではないかと思います。授業評価アンケートの回答率が低かったので、次回からは授業内で回答する時間を設けようと思います。
ラ	能美 智子	医薬と検査	パワーポイントの文字の大きさについて、見やすいように拡大して表示しました。また1ページに収まる文字数を減らしてシンプルに修正しました。	到達目標に達していると感じている学生がほとんどでしたので、このペースで進めたいと思います。改善点はグループワークの時間をもう少し増やして全員が発言できるように工夫したいと思います。
ラ	多田知正	ウェブプログラミング演習	少し難しいと感じているようだったので、内容を一部見直した。	当初想定していた到達目標を達成できた学生は多くないが、合格した学生については一定のレベルまでは到達できたと考えている。
ラ	能美 智子	医療事務Ⅲ(DPC含む)	ほとんどの学生が、課題提出や授業への取り組みが良く、グループワークも上手く調和がとれていたように思います。	授業に取り組む姿勢は良いのですが、テストをした時の臨機応変さが少し足りない学生が見られました。その辺りも日ごろから自分で考えて答えを導き出すプロセスを入れておく必要を感じました。シラバスの到達目標については全員が合格ラインだと思えます。
ラ	山田真優美	製菓演習	中間アンケートの結果から、授業の進行の順序やデモンストレーションのタイミングの見直しを行った。段取りを細分化することにより、学生の実演の理解度が高まった。	洋菓子の基本を軸とした授業内容に対する理解度は総合的に良かった。小テストや菓子検定の演習を行うことで、実践作業だけでなく製菓理論への知識の理解も見られた。授業ノートでは個々の実習の理解度がはかれた。小テスト等の未提出者が数名いたので、後追いでできるようにしたい。
ラ	三埜 保	世界観光地巡り	板書と画像を交えながら少しでも世界の観光地に興味が持てるようまた、社会に出ても学んだことが役にたつようエピソードなども加えて授業に取り入れました。	概ね理解でき目標達成出来たと感じます。ただ、複雑な内容(時差や飛行所要時間の計算等)や興味のない国のことは、投げたそうとする傾向もあり今後は、個々に見ていく時間や興味を示す工夫も必要だと思います。
ラ	山岡 正弘	フードマネジメント・メニュープランニング	パワーポイントを使って会話型の授業推進をした結果、前回より興味を持ってきたようです。	内容が難しいようでシラバス全体の見直しの必要性を感じる。来季のシラバスは全面リニューアル進めます。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	兵頭真由美	ビジネス文書	中間アンケートでは、全員から「改善点はなし」との結果でしたが、より一層履修者の学修理解が進むように、小テストで理解度の確認をしながら進めました。	シラバスの到達目標である、ビジネス文書作成の基本知識の習得が全員達成できました。今年度は少人数のクラスでもあり、個別指導が届きやすかったことも要因と考えます。今後も、できるだけ個別指導をより多く取り入れながら進めてまいります。
ラ	藤堂 隆司	診療情報管理論A	中間アンケートの結果では、これと言った意見や要望はなかった。なるべく、診療録管理や診療情報管理に関連した内容や実際の実務内容についても講義に取り入れる工夫をした。振り返り試験を毎回行うことで、学生には授業への参加を促すことやしっかり受講するよう指導した。	シラバスの到達目標の結果では、ほとんど、かなり、少し達成したのが全体の80%を占めた。最終試験では、S評価10名 A評価3名 D評価1名となった。
ラ	伴 裕果	キャリアプランニング [B]	こまめなフィードバックや肯定的な関わりが自己肯定感の向上や実践的なスキルの習得に繋がっていることが確認できました。 改善要望のあったスーツ着用に関しては、その目的を再周知した上で、合格基準に達した学生や公平性に注意した中で、事情のある学生には免除する柔軟な運用を取り入れました。名札の提示免除希望については、自己表現と発言への責任感醸成という教育的意図を説明し、理解を促しました。また、対人関係の悩みに対しては、社会における多様な状況への対処法を提示し、個別の相談窓口を案内するなどの精神的フォローを強化しました。今後も、一人ひとりの挑戦を評価し、主体的に参加できる環境作りを継続します。	到達目標に対し、自己評価で80%以上達成とした学生が約73%に達し、実際の成績でもS・A評価が計76%を占めたことから、目標は概ね高い水準で達成されました。 積極的な参加を促す工夫については、回答者全員から肯定的な評価を得ました。発言の正誤を問わない「参加貢献ポイント制」や、個々の得意不得意に応じた多角的な参加機会の提供が、学生の自信と主体性を引き出す鍵となりました。 今後の課題は、半数以上の学生で30分未満に留まった自学自習時間の確保です。また、評価がCに留まった層への個別フォローや、人間関係等の心理的阻害要因への早期対応を強化し、さらなる学習効果の定着とボトムアップを目指します。
ラ	瀬口昌生	プレゼンテーション演習 (PowerPoint)	中間アンケートにおいては改善要求を求める声が無かったため、引き続き授業を受けやすい環境作りに留意していった。	凡その受講者は達成感を得ていた模様であるが、ビジュアル資料を仕上げるのに時間がかかる学生もいれば、イメージした資料を手早く完成させることのできる学生もいるため、時間の使い方に差が生じる。 ひとつのテーマにおいてプレゼンテーションを実施するのは全員の完成を待たねばならないため、作業が早い学生には、連続性のある別課題を複数用意しておく必要がある。今後の課題として準備しておきたい。
ラ	広田 高雄	ウェブデザイン演習	今回初めての授業であったが、学生の要望に応じつつ、学生が学習しやすい環境を作るように心掛けた。	当初作成のシラバス通り、もしくはそれ以上の達成が得られた。
ラ	杉本 篤史	簿記基礎	特になし	精算表については、多くの人ができていたが仕訳の問題は難しかったようです。 簿記学友の性格上、自習時間を多く取れるかが知識の習得に大きく影響を与えます。 自習時間を確保できるように今後取り組んでいきたい。
ラ	数藤 晶子	食空間のデザインと演出	改善点として、どこを板書して、どこを板書しなくていいかわからないとの記載があったので、基本は自分で判断して欲しいが、絶対に板書が必要な箇所は、その都度伝えるようにした。学生により、写すスピードが違うため、必ず全員ができたかどうか確認をするようにした。	この授業は、失格となるギリギリの回数を欠席する学生が多く、受講人数が一人の時もあり、途中で授業の順番を入れ替えるなど欠席者に対し考慮した。授業内の小テストについては、欠席した日のプリントを配布し、試験内容を再度確認できるようにしたり、実技試験など準備のフォローをすることで、失格者を出さずに終了することができた。

	教職員氏名	科目名	問1. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	問2. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	竹内 和奏	HIPHOP IV	鏡の枚数が少なく、自身の動きを確認しながら授業を受けることが難しいとの声が多かったため、後期からは体育館の方で授業を行い、有意義に練習することが出来たのではないかと思います。 クリエイティブな発想を育てるため、2人組になりコミュニケーションをとりながら練習するようなことも行ったりと、生徒の皆さんのレベルに合った授業が出来たのではないかと思います。	音楽の聴き取り、動きの捉え方など正確になっていたため、多くの生徒が達成出来ていたと思います。
ラ	堀口 節子	カウンセリング概論	アンケートにて「スライドが分かりやすい」との評価が多かったため、文字だけでなく図や表を使用して目で見て分かりやすい授業を工夫した。 また、「話すスピードが速い」との指摘があったので、学生の様子をみながら、ゆっくり話すように心がけた。その結果、全部の学生が「改善の取り組み」の質問に、ややそう思う～そう思う、と答えており改善が認められたと考える。	シラバスの達成目標の質問に9割近い学生が、かなり達成できた～ほとんど達成できた、と評価している。一定の評価は得られたと考える。しかし、テストの成績にばらつきが多く、今後も学生が興味を持って楽しく参加できるような授業、グループワークや実習を取り入れた授業を夫していきたいと考える。
ラ	田端 拓哉	社会心理学	配布資料に、自分で書き込む空欄をもっと増やしてほしいとのご要望をいただきました。 中間アンケート以降の授業では、それ以前よりも空欄が増えるため、今回は対応は行いませんでした。来年度についてはまた調整を考えます。	最後のレポート提出までたどり着いた学生は、ある程度以上の到達度であったと思われる。 授業期間中は単位取得が懸念される様子の学生もいましたが、その学生のレポートは懸念したほどには悪くない内容でした。 体調や生活習慣の問題で出席できない学生については当方では対応できませんが、学生が継続して出席しやすいように、学生が関心を保てる説明をさらに盛り込めるように努めてまいります。
ラ	白 善暎	ビジネス・医療のための韓国語	中間アンケートの結果を踏まえ、授業の改善を図りました。これまでは学生の韓国語への関心を高めるため、発音や文字の基礎学習に加えて、日韓の文化比較などを交えた授業を行ってきました。しかしアンケートを通じ、医療に関する実践的な会話練習が不足しているという課題に気づきました。今後は、文化的な学びによる学習意欲の維持を図りつつ、現場で役立つ医療関連の会話練習をより多く取り入れるよう授業内容を工夫しました。	学生の成績分布から、シラバスに掲げた基礎的な語学力の到達目標は概ね達成できたと評価している。一方で、授業評価アンケートの結果も踏まえると、専門分野に特化した知識の習得や実践的な運用には至らなかった点が今後の課題として挙げられる。今後は、基礎的な韓国語能力の向上を維持しつつ、卒業後の現場で直ちに役立つような、より専門的な語彙の導入や実践的な会話演習を積極的にシラバスに組み込んでいく予定である。